京セラギャラリー2025年夏季特別展

表現のそれから

ーアートと障害のアーカイブ・京都ー

KYOCERA Gallery Special Exhibition Summer 2025

After Expression

— The Kyoto Archive of Art by People with Disabilities —

2025.6.7 土 ——— **7.26** 土

時間 10:00–17:00（※入館は16:30まで）　**休館日** 日・祝　**入場料** 無料

京セラギャラリー 2025 年夏季特別展
「表現のそれから - アートと障害のアーカイブ・京都」

KYOCERA Gallery Special Exhibition Summer 2025
“After Expression – The Kyoto Archive of Art by People with Disabilities –”

出展者
池上洋二、上羽千春、宇仁英宏、長村良彦、AKIO、木引英明、木村康一、
木村全彦、国保幸宏、櫻井三郎、TK、西生てる子、濱中徹、平田猛、廣川照章、
藤橋貴之、松原日光、MAMEMI、光島貴之、美濃彩子、三原巌、山口愛、
米田祐二

会場：京セラギャラリー
住所：〒612-8501　京都市伏見区竹田鳥羽殿町 6 番地　京セラ本社ビル 1F
会期：2025 年 6 月 7 日（土）–7 月 26 日（土）
時間：10:00-17:00（入館は 16:30 まで）
休館日：土日、祝日及び、特別休館日

主催：京セラ株式会社、京都府、art space co-jin（きょうと障害者文化芸術推進機構）
共催：京都市
後援：京都新聞、KBS 京都、エフエム京都

協力：社会福祉法人相楽福祉会、社会福祉法人みずなぎ学園 みずなぎ鹿原学園、アトリエ・ウーフ、アトリエとも、障害者支援施設 DO、就労支援施設 ヴィレッジれん、社会福祉法人修光学園、京都市ふしみ学園 アトリエやっほぅ !!、障害者支援施設 いこいの村・栗の木寮、株式会社 NPO スウィング、社会福祉法人南山城学園、NPO 法人わくわく、社会福祉法人新明塾、アトリエみつしま、三原巌原画を観る会実行委員会、障害福祉センターあらぐさ、NPO 法人加音（順不同）

展覧会企画：art space co-jin
キュレーション・会場構成：寺岡海（art space co-jin）
広報デザイン：タナカタツヤ

お問合せ
見学に関する問い合わせ TEL 075-604-6141
展示・イベントに関する問い合わせ TEL 075-604-3518
https://www.kyocera.co.jp/company/csr/facility/gallery/

アートと障害のアーカイブ・京都
The Kyoto Archive *of* Art *by* People *with* Disabilities

出品作品リスト

美濃彩子 MINO Ayako	無題	不明	ボールペン、色鉛筆、紙	250×350	003345
	無題	不明	ボールペン、色鉛筆、紙	250×350	003340
	無題	不明	ボールペン、紙	250×350	003346
	無題	不明	ボールペン、紙	419×297	003289
三原巌 MIHARA Iwao	（タイトル不明）	不明	色鉛筆、鉛筆、フェルトペン、紙	251×172	005258
	（タイトル不明）	不明	色鉛筆、鉛筆、フェルトペン、紙	256×176	005249
	（タイトル不明）	不明	色鉛筆、鉛筆、フェルトペン、紙	183×257	005287
	（タイトル不明）	不明	色鉛筆、鉛筆、フェルトペン、紙	158×232	005273
	（タイトル不明）	不明	色鉛筆、鉛筆、フェルトペン、ボールペン、紙	205×237	005305
山口愛 YAMAGUCHI Ai	女の子	不明	色鉛筆、鉛筆、色画用紙	211×297	005130
	犬	2011	オイルパステル、紙	272×190	006730
	日本猫	2012	色鉛筆、紙	270×380	005103
	（タイトル不明）	2022-2023	色鉛筆、紙	123×173	未公開
米田祐二 YONEDA Yuji	（タイトルなし）	2020	インクジェットプリント	594×841	004128
	（タイトルなし）	2017	インクジェットプリント	594×841	未公開

資料映像

作家名	タイトル	制作年	その他
木村康一	木村康一資料映像	2020 年	6 分 55 秒
			協力：社会福祉法人修光学園
			制作：art space co-jin
木村全彦	木村全彦 資料映像	2025 年	2 分 15 秒
			協力：京都市ふしみ学園 アトリエやっほぅ !!
			制作：art space co-jin
国保幸宏	国保幸宏 資料映像	2025 年	2 分 36 秒
			協力：京都市ふしみ学園 アトリエやっほぅ !!
			制作：art space co-jin
西生てる子	西生てる子 資料映像	2021 年	4 分 21 秒
			協力：社会福祉法人 南山城学園
			制作：art space co-jin
平田猛	平田猛 資料映像	2019 年	11 分 53 秒
			協力：一般財団法人川越病院
			制作：art space co-jin

ごあいさつ

この度、京セラ株式会社、京都府、art space co-jin（きょうと障害者文化芸術推進機構）は、京セラギャラリー 2025 年夏季特別展「表現のそれから - アートと障害のアーカイブ・京都 -」を開催いたします。

art space co-jin が取り組む「アートと障害のアーカイブ・京都」では、京都府内の障がいのある方の作品や表現をデジタルアーカイブし、オンライン上で公開する活動を行っています。
それらの作品は、美術、あるいは福祉の領域の中でも位置づけが難しいものも多くあります。特に、障がいのある方の表現の現場においては、作品や表現が評価されないまま、散逸、破棄されるなどの現状が課題としてあげられます。
そのような経緯もあり、「アートと障害のアーカイブ・京都」はこの時代の障がいのある方の表現を記録し、オンラインを通じてより多くの方に知っていただき、作品の発信と活用機会の拡大を図っています。それは、表現が現代で消えてしまわぬように「未来」へと繋げていくことであり、表現のその後を支えていく取り組みでもあると考えています。

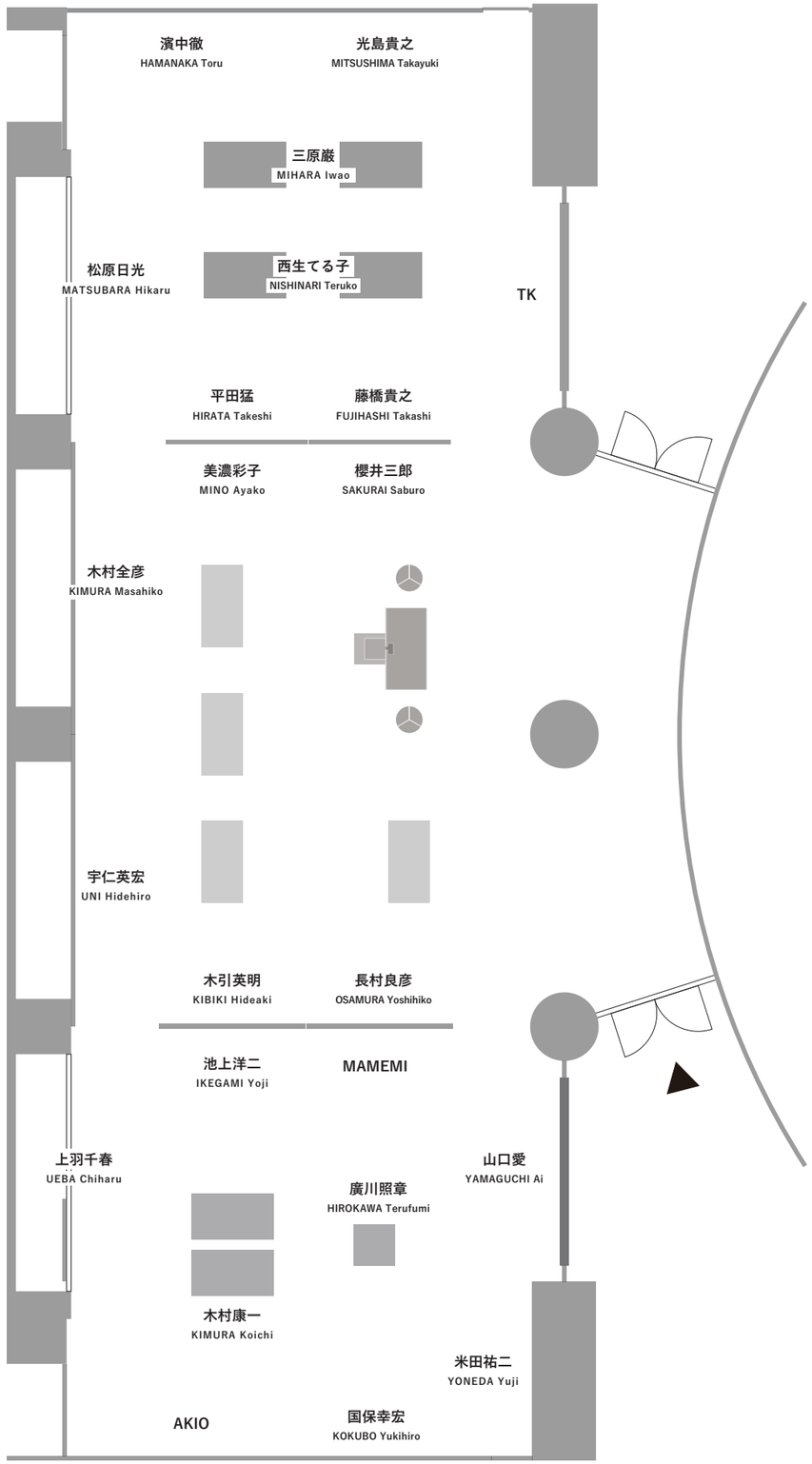
京セラでは、2022 年より社会福祉活動の一環として、京都府および art space co-jin と連携し、「アートと障害のアーカイブ・京都」から選んだ作品画像をタペストリーに仕立て、社内で展示してきました。本取り組みをきっかけに、今回、京セラ・京都府・art space co-jin の三者が連携し、京セラギャラリーにて本展を開催する運びとなりました。

「表現のそれから」と題した本展では、art space co-jin のデジタルアーカイブを行った 23 名の作家の作品を一堂に会し、制作に関わる未公開資料映像なども併せて展示します。本展を通じて、彼ら、彼女らの作品が多くの方の目に触れることで、表現が未来へ続いていく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、貴重な作品をご出品いただきました出品作家の皆様、本展実現のために貴重なご助言とご協力を賜りました全ての皆様に、心よりお礼申し上げます。

2025 年 6 月

京セラ株式会社
京都府
art space co-jin（きょうと障害者文化芸術推進機構）



展示配置図

出品作品リスト

作家名	タイトル	制作年	素材・技法	サイズ（mm）	作品番号
櫻井三郎 SAKURAI Saburo	バス	不明	色鉛筆、オイルパステル、紙	298×419	006302_01
	車	2021-2023（推定）	色鉛筆、紙	298×420	006271_01
	車	2021-2023（推定）	色鉛筆、紙	301×420	006283_02
	高速道路	2021-2023（推定）	色鉛筆、紙	298×420	006288_01
	高速道路とトンネル	不明	色鉛筆、紙	298×419	006299_01
	山	2021-2023（推定）	色鉛筆、紙	298×420	006266_01
TK	夜明け前、新天地へ	2009	オイルパステル、紙	240×273	004752
	潜水が得意な マッコウクジラ	2021	フェルトペン、紙	545×790	未公開
西生てる子 NISHINARI Teruko	タイトル不明	不明	オイルパステル｜紙	753×532	S0085_006495 -006511_NT
	タイトル不明	不明	オイルパステル｜紙	502×366	S0076_006307 -006330_NT
	タイトル不明	不明	オイルパステル｜紙	652×420	S0084_006478- 006494_NT
濱中徹 HAMANAKA Toru	蛹のなかで春を夢見る	2000（推定）	水彩、鉛筆、紙	348×349	000239
平田猛 HIRATA Takeshi	無題	不明	色鉛筆、紙	248×350	未公開
	無題	不明	色鉛筆、紙	248×350	未公開
	無題	不明	色鉛筆、紙	248×350	未公開
	無題	不明	色鉛筆、紙	248×350	未公開
	無題	不明	色鉛筆、紙	248×350	未公開
廣川照章 HIROKAWA Terufumi	箱	不明	ダンボール、ガムテープ	202×267×345	004931
藤橋貴之 FUJIHASHI Takashi	植物園の滝	2008	色鉛筆、鉛筆 、紙	314×407	000278
	主計町茶屋町の桜	2012	色鉛筆、鉛筆 、紙	305×398	000184
	アイルランド島	2000	色鉛筆、鉛筆 、紙	463×553	未公開
MAMEMI	おはな	2020	色鉛筆、紙	271×384	006783
	まる	2021	色鉛筆、紙	272×394	006805
	まる	2020	色鉛筆、紙	271×384	006778
	はっぱ	2019	色鉛筆、紙	270×379	006686
松原日光 MATSUBARA Hikaru	軽飛行機	不明	糸、布	970×1,245	004924
	庭に咲いた花	2010	糸、布	735×997	001436
	はたらくふね	1995	糸、布	318×373	001378
光島貴之 MITSUSHIMA Takayuki	路地を通り抜けると	2015	カッティングシート、ラインテープ 点字シール、シール、アクリル板	918×919	003689
	竹のリズム	2004	ラインテープ 、カッティングシート シール 、紙	455×532	003531
	まなざし No.13 隠されている	2021	釘、木材、ファー、スポンジ ワッシャー、ほか	169×239×50	未公開
	まなざし No.14 ほんとうは？	2021	釘、木材、ファー、スポンジ ワッシャーほか	169×239×60	未公開

出品作品リスト

作家名	タイトル	制作年	素材・技法	サイズ（mm）	作品番号
池上洋二 IKEGAMI Yoji	ねこ、猫である	不明	オイルパステル、水彩、紙	540×381	000651
	ふくろう	2025	オイルパステル、水彩、紙	540×381	004776
	ウサギ	2021	オイルパステル、水彩、紙	539×380	004810
	イヌネコ	2023	オイルパステル、水彩、紙	540×381	未公開
上羽千春 UEBA Chiharu	かぼちゃ	不明	ミシン糸、布	455×625	000269
	ふうせん	不明	ミシン糸、布	393×274	000264
	自画像（2 人）	不明	ミシン糸、布	200×270	000253
	ビスケット	不明	ミシン糸、布	310×305	未公開
宇仁英宏 UNI Hidehiro	夕日	2006	油彩、キャンバス	608×730	001886
	木ー秋・冬・夏	1996	油彩、キャンバス	729×607	001863
	氷山	2019-2021（推定）	油彩、キャンバス	410×323	001898
	ナイアガラの滝	1999	油彩、キャンバス	731×911	001898
長村良彦 OSAMURA Yoshihiro	パカラ	2009	水彩、アクリル絵の具、シャープペンシル、紙	240×273	004752
	黒のふちどりで	2014	水彩 、アクリル絵の具 、紙	379×540	004754
	ふちどりだけ	2020	水彩 、アクリル絵の具 、紙	380×541	004760
	PINK&PURPLE	2017	水彩、アクリル絵の具、シャープペンシル、紙	380×540	004759
AKIO	TOKYO	不明	フェルトペン 、紙	992×992	002603
	東京タワーと クリスマスツリー	2024	フェルトペン 、紙	592×840	未公開
木引英明 KIBIKI Hideaki	タイトル不明	不明	色鉛筆、鉛筆、フェルトペン、紙	337×504	004366
	無題	2010-2020（推定）	色鉛筆、鉛筆、フェルトペン、紙	287×205	004401
	タイトル不明	不明	色鉛筆 、フェルトペン 、紙	252×337	004376
	タイトル不明	不明	鉛筆 、紙	352×255	004509
木村康一 KIMURA Koichi	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	タイトル不明	不明	陶土	-	未公開
	みつあしいぽっんおに	不明	鉛筆、紙	182×257	002257
	きつねがみさま	不明	鉛筆、紙	182×257	002339
	ろくめおにうでくびおんな	不明	鉛筆、紙	182×257	002315
	タイトル不明	不明	鉛筆、紙	182×257	未公開
木村全彦 KIMURA Masahiko	ブルートレイン	2010	色鉛筆、イラストボード	515×728	000497
	旬の食材	2009	色鉛筆、イラストボード	515×729	000494
	バラとカナブン	2009	色鉛筆、イラストボード	515×728	000495
国保幸宏 KOKUBO Yukihiro	ゴッホ自画像 2	2016	オイルパステル、アクリル絵の具、紙	727×514	000073
	ひつじ	2014	オイルパステル、アクリル絵の具、紙	546×789	000134
	こんぺいとう	2010	オイルパステル、アクリル絵の具、紙	789×549	000103

池上洋二
IKEGAMI Yoji

1974 年生

社会福祉法人相楽福祉会
相楽作業所

図鑑や写真を見ながら、大胆な構図と色使いで動物や植物を描く。気に入ったモチーフは繰り返し描かれるが、配色や混色についてはその都度、変化している。斬新な表現の中にも工夫が見られ、描かれる線は生き物の力強い存在を余すところなく表している。制作中は、職員や他の施設利用者とのやり取りや冗談を交え、楽しみながら描き進めている。

上羽千春
UEBA Chiharu

1979 年生
京都府舞鶴市在住

みずなぎ鹿原学園

刺しゅうと掃除が好き。作業中は職員と言葉あそびをして楽しむこともある。自分で下絵を描き、いろいろな色のミシン糸を合わせて、糸を作ってから刺しゅうを始める。色合わせ、糸作り、刺しゅうの構図、どれを取ってもオリジナルであり、「ちはるステッチ」ができあがる。

宇仁英宏
UNI Hidehiro

1978 年生 ｜京都市在住
アトリエ・ウーフ

中学生の時に、アトリエ・ウーフに入会、当時の絵は小さな画用紙には収まりきれず、切ったり貼ったりくっつけたりと立体的になり、やがて油絵で開花した。大胆な構図と、若々しくシュールな色づかい。壁のように絵具を何重にも塗り込めたマチエールが魅力的。現在もアトリエ・ウーフの同じ席で、マイペースに制作を続けている。

長村良彦
OSAMURA Yoshihiko

1968 年生｜京都市在住
アトリエとも

色彩が好き、でも描きたいものが見当たらない。ならば「型」があれば描けることに着想し、2011 年頃から「テンプレート定規」を使った絵画制作に励んできた。
数多く所有している定規の中から、動植物や幾何学模様など様々な形を細やかに構成していく。下絵にはカラー芯シャープペンシルを使用し、その後シャープペンシルのクリーナーピンを取り付けた自作のペンで着色する。半年近くかけて制作される作品からは、反復する図像の美しさと可能性、描くことへの色気に溢れている。

AKIO
AKIO

1961 年生

京都府城陽市在住
障害者支援施設 DO

昔から絵を描くのが好きだったという川村。DO では 2010 年頃からの彼の作品が残っている。今はクラブ活動時間以外でも居室でよく絵を描いており、時間があれば気が済むまでスケッチブックと向き合っている。そんなスケッチブックの冊数は 100 冊を超えており、広げてみると全て細かく彩り描かれており、同じようで少しずつ違う…。そこには川村の世界が広がっている。特にお気に入りは東京タワーだそうで、東京タワーを中心とした東京都市や琵琶湖、比叡山などカラフルな絵たちを描いている。

木引英明
KIBIKI Hideaki

1960 年 -2021 年

就労支援施設
ヴィレッジれん

12 歳頃、父親の仕事の関係で大阪から茨城へ引っ越し、その後千葉へ移る。
18 歳まで東京の日本デザイン専門学校（現：日本デザイン福祉専門学校）のグラフィックデザイン学科に通い、卒業後は大阪に戻ったあと、京都・亀岡市へ両親とともに移住。
スケッチブックに鉛筆や色鉛筆を用いて描く、繊細な動物画とコミカルなイラストが特徴。

木村康一
KIMURA Koichi

1976 年生｜京都市在住

社会福祉法人修光学園

ユーモラスな表情のカッパや猿、あるいは、手足や目、鼻、口など身体のパーツが自在に組み合わされた生き物など、陶器にてオリジナルの「妖怪」を制作している。時に同じモチーフのものをいくつも作ることもあるが、基本的には一つ一つ異なる千差万別の作品を生み出している。小学生の頃に水木しげるの影響で妖怪が好きになり、模写から次第にオリジナルのものを描くようになった。修光学園に通い始めてから陶芸での制作を行うようになり、現在も学園では陶芸の立体物を作り、自宅では B5 サイズの紙に鉛筆で大量のドローイングを描いている。

木村全彦
KIMURA Masahiko

1984 年生｜京都市在住

京都市ふしみ学園
アトリエやっほぅ !!

色鉛筆を用いて、独特のタッチで絵画を描く。「キュニキュニ」という愛称で呼ばれるその細かなタッチが集積してできた画面は、独特の視覚効果を生み出し、見る人を惹きつける。モチーフはその都度、様々で写真や雑誌を見ながら描く。馬とバラエティー番組が大好き。

櫻井三郎
SAKURAI Saburo

1956 年生｜京都府綾部市在住

障害者支援施設
いこいの村・栗の木寮

2015 年ごろから入居する施設の中で絵を描き始めた。施設では当初は農作業をしていたが、体力的に合わなかったため、絵を描く班に移ったことがきっかけだという。別の作業所への送迎バスの窓からの風景や旅行で見た景色の記憶を元に描いたり、写真のたくさん載っているチラシやパンフレットを集めては、それらを見て描いている。モチーフとしてはバスなどの乗り物、道路、山などの風景に加えて、たくさん持っている動物のぬいぐるみが描かれることもある。

国保幸宏
KOKUBO Yukihiro

1974 年生

京都市ふしみ学園
アトリエやっほぅ !!

濃いクレヨンと淡い絵の具を何層にも積み重ねる。
何度も同じ道を巡る、終わりが見えない旅のような工程。
時に独特のメロディーを口ずさみながら筆を走らせ、軽やかさと深遠さを紙に塗りこめて行く。
彼の作品を持つとその重さに驚くだろう。

TK
TK

1968 年生
スウィング

2013 年、あるワークショップへの参加をきっかけに絵を描きはじめる。
人柄は寡黙、誠実、真面目。その人柄を表すような忠実な写実を画風とするが、モチーフを描ききれない時には紙の裏側にまで回り込んで続きを描く真面目さは、もはや一周回って型破り。やはり型にはまらない鮮やかな色遣いも美しい。

西生てる子
NISHINARI Teruko

1955 年生｜京都府城陽市在住

南山城学園

スケッチブックにオイルパステルで描かれた西生てる子の作品は、独自の方法によって生み出されている。まず最初のページにオイルパステルで少しだけ線を描き、次のページにも少しだけ線を描く。さらにページをめくり、同様に描いてはまたページをめくる。そうして、スケッチブックの最後に辿り着くとひとつ前のページへ戻り、また同じように描き重ねていく。その小さな行為の繰り返しによって線は幾重にも重なり、手で擦られ、ぼんやりとした色のかたまりがつくられていく。

濱中徹
HAMANAKA Toru

1948 年 -2024 年

19 歳の頃に絵を描き始めて以来、独学で自分の世界観を描き続けてきた。独自に編み出した技法により生み出される繊細な絵の中には、鉱石でできたラジオに耳を傾ける蛙や、機械式時計の虫、オリジナル機能をもつカメラなどが登場し、一枚一枚の絵の中でさまざまな物語が展開されている。

平田猛
HIRATA Takeshi

1936 年 -2021 年

毎日、ベッドの上でスケッチブックに絵を描き続けている平田猛。そこには内臓と思わしき丸で構成された人体や、文字、単純化された動物や、薬、窓の外の風景など、さまざまなモチーフが描かれ、休むことなく生み出されるそのドローイングは膨大な量となっている。

廣川照章
HIROKAWA Terufumi

1965 年生

廣川の暮らすグループホームの自室には、大量のダンボール箱が高く積まれている。それらは「箱」と呼ばれ、内側と外側から何重にもガムテープを巻きつけて梱包されたものである。「箱」の制作は自室に鍵をかけて進められるため何が入っているかは明確にはわからない。
「箱」は 1 日 1 個ほどのペースで作られ、日々増え続けていく。あまりにも生活を圧迫するため減らすようにスタッフが説得したところ、廣川は「命よりも大事なもの」な旨を伝えてきた。以来、廣川の意思を尊重しながら共存の道を探っている。

出品作家プロフィール

藤橋貴之
FUJIHASHI Takashi

1963 年生｜京都市在住

社会福祉法人新明塾
及び、自宅にて制作

20 歳の頃より絵画制作を始め、自分の世界を広げる。想像の公園や街、写真で見た外国の風景などを、独自のゆったりとした、一定のリズムをもって、色鉛筆で細かく流れるように描く。本人の感性そのものである色彩とタッチが鮮やかな世界となって現出する。

松原日光
MATSUBARA Hikaru

1975 年生｜京都市在住
自宅にて制作

旅行で見た船や飛行機、季節ごとに庭に咲く花々は大きな「刺繍の絵画」となって表現される。震災に心を痛めれば物憂げな動物がキャンバスに現れ、参拝した寺院に感銘を受ければ花びらに独特の模様が現れる。繰り返される毎日の中で繰り返される針の動きは、鮮やかな色彩を伴って松原の世界を紡ぎ出す。

MAMEMI

京都市在住
加音西京極作業所

絵を描くことと可愛いものがとにかく好きで、休み時間も絵を描き続けている。花がモチーフとなる絵が多いが、くまやうさぎなどの動物や人物が登場することもある。フラワーアレンジメントの雑誌や絵はがきなどを見ながらイメージを膨らませ、リズミカルに色鉛筆を躍らせている。

光島貴之
MITSUSHIMA Takayuki

1954 年生｜京都市在住
アトリエみつしま

10 歳頃に失明。大谷大学文学部哲学科を卒業後、鍼灸院開業。鍼灸を生業としながら、1992 年より粘土造形を、1995 年より製図用ラインテープとカッティングシートを用いた「さわる絵画」の制作を始める。1998 年、「'98 アートパラリンピック長野」大賞・銀賞を受賞。他作家とコラボレーションした「触覚連画」の制作や、2012 年より「触覚コラージュ」といった新たな表現手法を探求している。また、触覚に着目したワークショップにも精力的に取り組んでいる。

美濃彩子
MINO Ayako

1993 年生｜京都府舞鶴市在住

みずなぎ鹿原学園

以前はとある施設職員の気を惹くために、戦国時代など主に日本の歴史に関する作品が多かったが、彼がなかなか振り向いてくれないため、現在は「新しい恋人」として歌舞伎俳優の市川猿之助を描いている。多くの作品はボールペンで描かれ、その軌跡の往復が鋭さと揺らぎを兼ねた独特の線を生み出している。

三原巖
MIHARA Iwao

1932 年 -2021 年

大阪で生まれた三原巖は聴覚障害があり、視覚からの映像で記憶することに注力し育った。京都市で生活を営み、仕事を退職した 2001 年頃から自身の記憶をもとにした絵の制作を始める。そこには第二次世界大戦中の描写が多くあり、戦時下の日常生活を描いたものもあれば、大阪大空襲の実体験を生々しく伝えるものもある。晩年は制作した絵を持って様々な場所に赴き、戦争体験を語り継ぐ活動を行なっていた。

山口愛
YAMAGUCHI Ai

1986 年生｜長岡京市在住
障害福祉センターあらぐさ

お気に入りのモチーフを繰り返し描くことが多く、真っ黒な瞳が特徴的な女の子もその 1 つだ。ケーキなどのスイーツは食べることも描くことも好きで、メモ帳に描いたシリーズは 400 枚に上る。見学にも行ったことがある NHK 放送局、空港もたびたび絵の中に現れる。デフォルメされた表現が多いが、より写実を意識した作品もある。

米田祐二
YONEDA Yuji

1991 年生｜京都府八幡市在住

小学生高学年の頃より母親の携帯電話で写真を撮っていたという米田は、中学 3 年生の時にデジタルカメラを買ってもらったことをきっかけに本格的に写真を撮り始め、それ以来ずっと撮影を続けている。彼の写真には、近所の風景や毎日の食事、猫、ソフトクリーム、出会った人々、空など、日々の暮らしの中での彼自身の視点が映し出される。